

学校教育目標	自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、心身ともにたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	自ら考え、判断し、行動する力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ・全国学力・学習状況調査結果より、思考力、判断力、表現力等は各教科正答率が高い。知識及び技能では、各教科の用語の定着が課題。 ・各教科を通して、記述式の問題で、根拠を教科の言葉で説明することが不十分。ただし、無回答はなく、説明しようとする意欲は高い。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ・国語・算数の勉強が好きと回答する割合、全国比+6.5p。 ・自分と違う意見について考えるのは楽しい割合、全国比-8.6p。 ・将来の夢や目標をもっている割合、全国比-13.7p 何のために学ぶのかの意識が弱く、キャリア形成の強化が必要。
	<b>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</b> ・国語は、書くことに対する意欲が高い。心情把握など複数の情報を組み合わせて想像する力を伸ばす必要がある。 ・算数は、計算力・説明力に個人差が大きい。各分野において、数や性質の表す意味を正しく理解する必要がある。 ・理科は、基礎は定着している。授業では日常生活との結び付きを強化するため、観察・実験を全ての学年で取り入れたが、内容の理解と結び付いていない児童がいる。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ・各授業で、解決すべき「課題」を児童と一緒に作り、毎時間振り返りを行っている。今年度は、「課題」に対する各自の考えをまとめさせる際、教科の用語を使用させたり、説明のための話型を提示したりして、分かりやすく伝える指導を行っている。この取組により、考えを発信する意欲につながりつつある。 ・振り返りにもICTを活用し、授業後の記録を児童・教員で共有できるようにし、児童のメタ認知を上げる手立てとしている。	
	<b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ・スキルタイムの有効活用…月・木の朝の活動で、各学年の基礎問題(漢字・計算)に取り組みさせた。 ・家庭学習の徹底…「学年×10分+10分」を学年通信や学校からの調査及び報告等で呼びかけ、各家庭への情報提供を行った。調査の結果より、目標時間を意識して学習に集中する児童が多くいた。45分以上の学習時間をどのように充実させるかが課題。 ・学級の実態に応じた指導の工夫…補助教員等の活用で、児童の状況に応じた個別指導・支援を適宜行った。	

学力に関する達成指標

- 国語・算数の評価テストの平均点 全学年1学期末80点以上、学年末85点以上。
- ・自分の考えをまとめ、表現することのできる児童90%以上。
- ・授業の内容が分かり、毎日の授業が楽しいとする児童90%以上。
- ・毎日決められた時間の家庭学習に取り組むことができる児童90%以上。
- ・家庭学習時間調査の達成割合「学年×10分+10分」 1回目60%以上、2回目65%以上。(昨年度2回目67.3%)

